

### 運輸代行業協会

# 飲酒運転の根絶訴え チラシ配りや商議所と会合

依然として続く飲酒運転を無くしようと、県内の運輸代行業者で組織する全国運輸代行協会県支部(中山一夫支部長)はこのほど、飲酒運転根絶キャンペーンを行った。キャンペーンは土浦キララまつり会場で、市民に向けて飲酒運転根絶を訴えるチラシを配布したほか、土浦商工会議所の中川喜久治会頭ら関係者らと会合し、飲酒運転の根絶を訴えた。

会合で中山支部長は「どうしても代行に乗ると(費用が)かかる。市内だったらワンコインや『1000円札1枚で帰れるようにしよう』と提案したい。どういう運輸代行がいいのか考えている」と述べた。同席した全国運

転代行協会の栗原和夫専務理事は「業界の健全化に骨折りたいだいたい。茨城が全国のモデルケースになればと思う」と述べた。これに対し、中川会

頭は「昼間は別な仕事をして、夜に代行の仕事をする人がいると聞くと大丈夫かなと思う。運輸代行業全体の地位向上、信頼に團結してあたるのが大切」と、中山支部長らの取り組みを高く評価した。

出席者からは「代行料金は『交際費』扱いだが、交通費扱いにし

てほしい」「一部の業者(協会非加入)が2千500円、5千100

00円などジャンピングをする。危なくて乗れない」などの意見が聞かれた。

中山支部長は取材に「次の世代のために運輸代行を『ちゃんとした職業』として認めさせたい」と語った。(崎山勝功)



飲酒運転根絶キャンペーンチラシを配布する、全国運輸代行協会県支部の会員たち。土浦市川口の土浦キララまつり会場